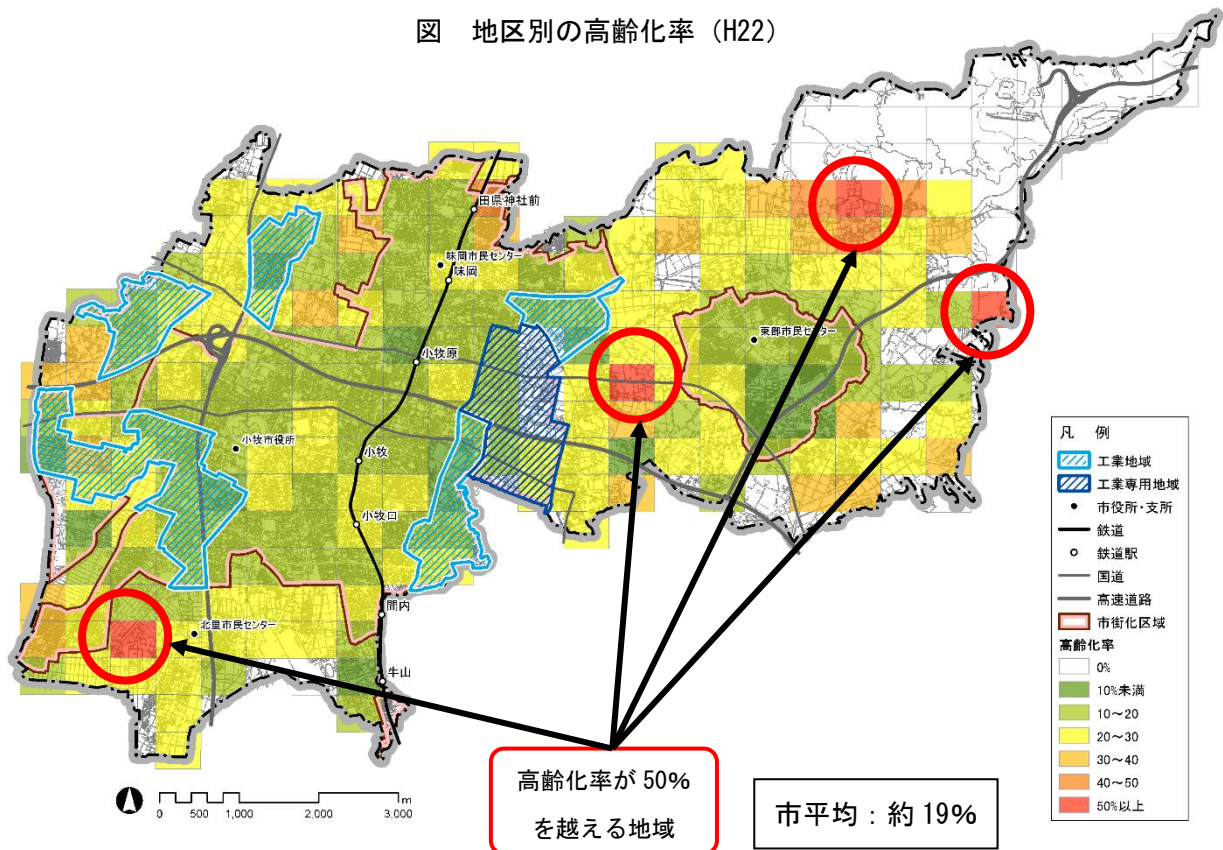


⑥高齡化の動向

本市の高齢者人口を地区別にみると、平成22年時点の高齢化率は、市域東部をはじめ一部地域で市全体の平均（約19%）をはるかに上回る50%を越えています。20%未満の地域も多数存在しています。

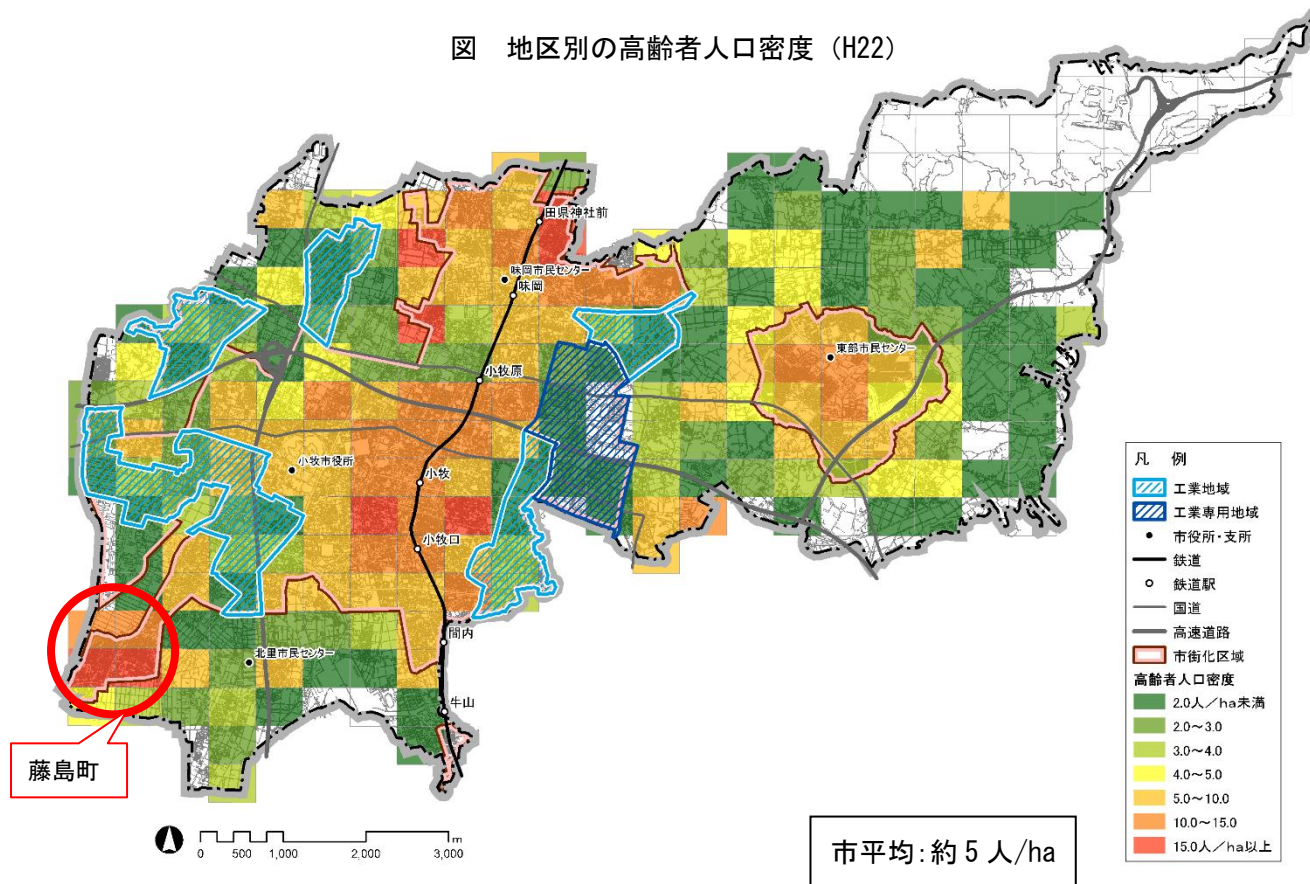
しかしながら、藤島町など高齢者人口密度が高く高齢者のみの世帯が多い地域や、高齢化率が総体的に低い名鉄小牧線沿線や桃花台ニュータウン等の地域においても高齢者人口が増加していることから、高齢化が進展していくことが懸念されています。

図 地区別の高齢化率（H22）



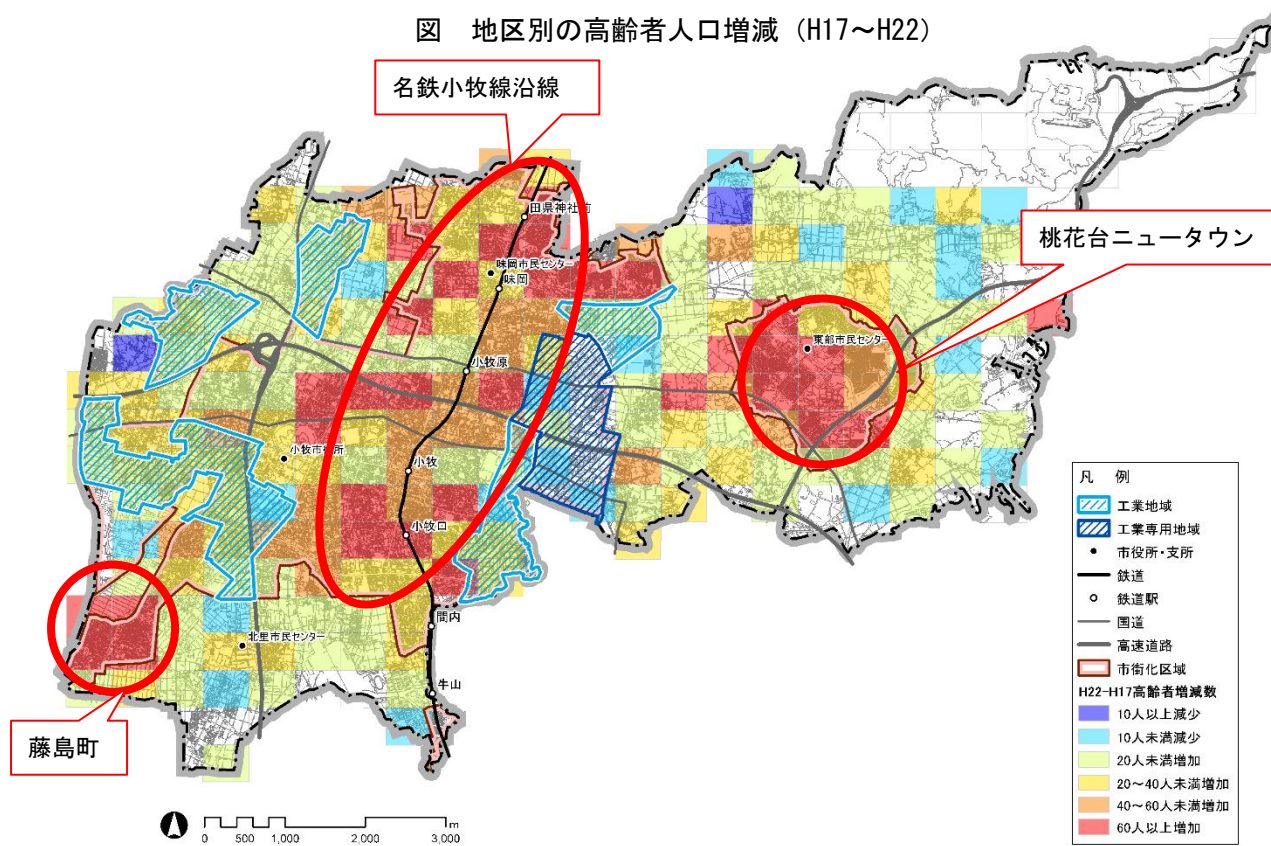
（資料：平成22年国勢調査）

図 地区別の高齢者人口密度 (H22)



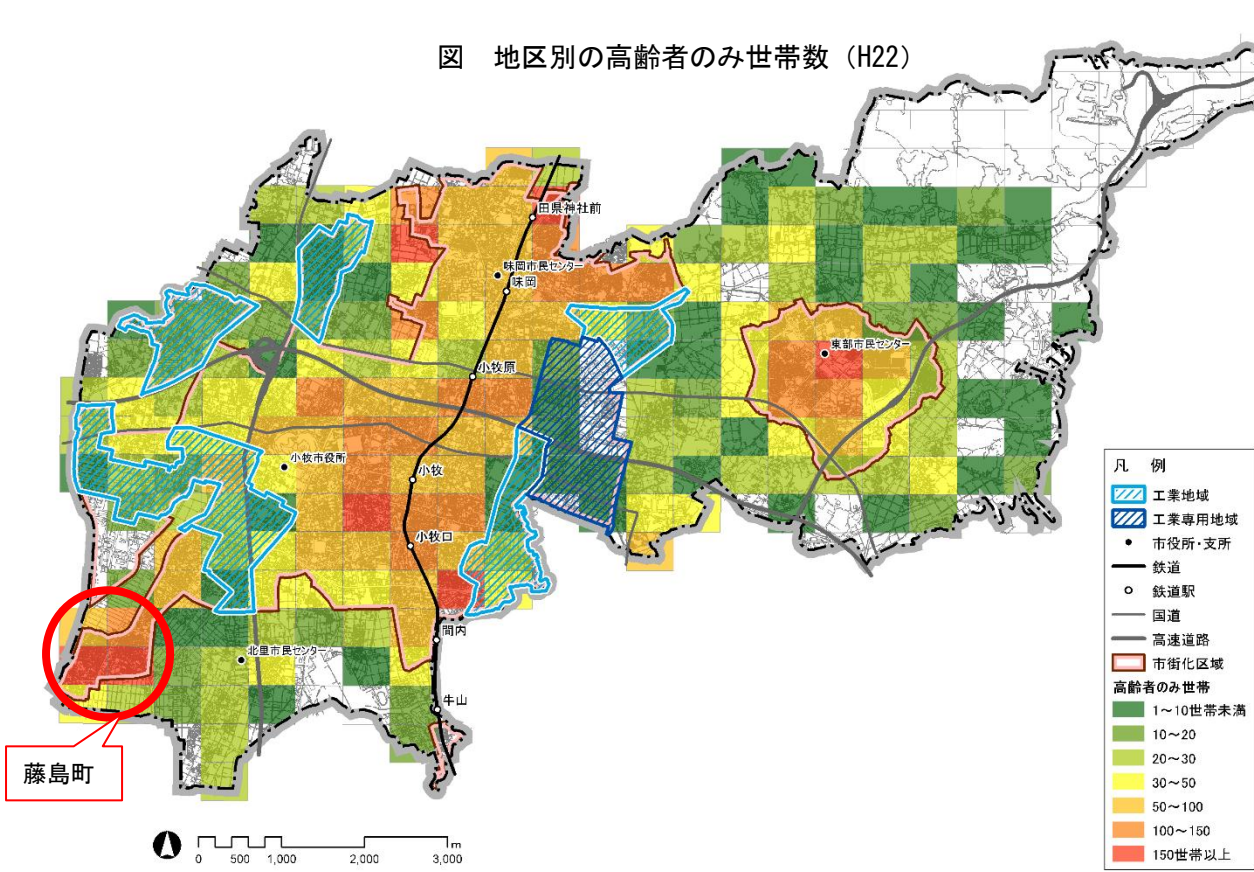
(資料: 平成 22 年国勢調査)

図 地区別の高齢者人口増減 (H17~H22)



(資料: 国勢調査)

図 地区別の高齢者のみ世帯数 (H22)



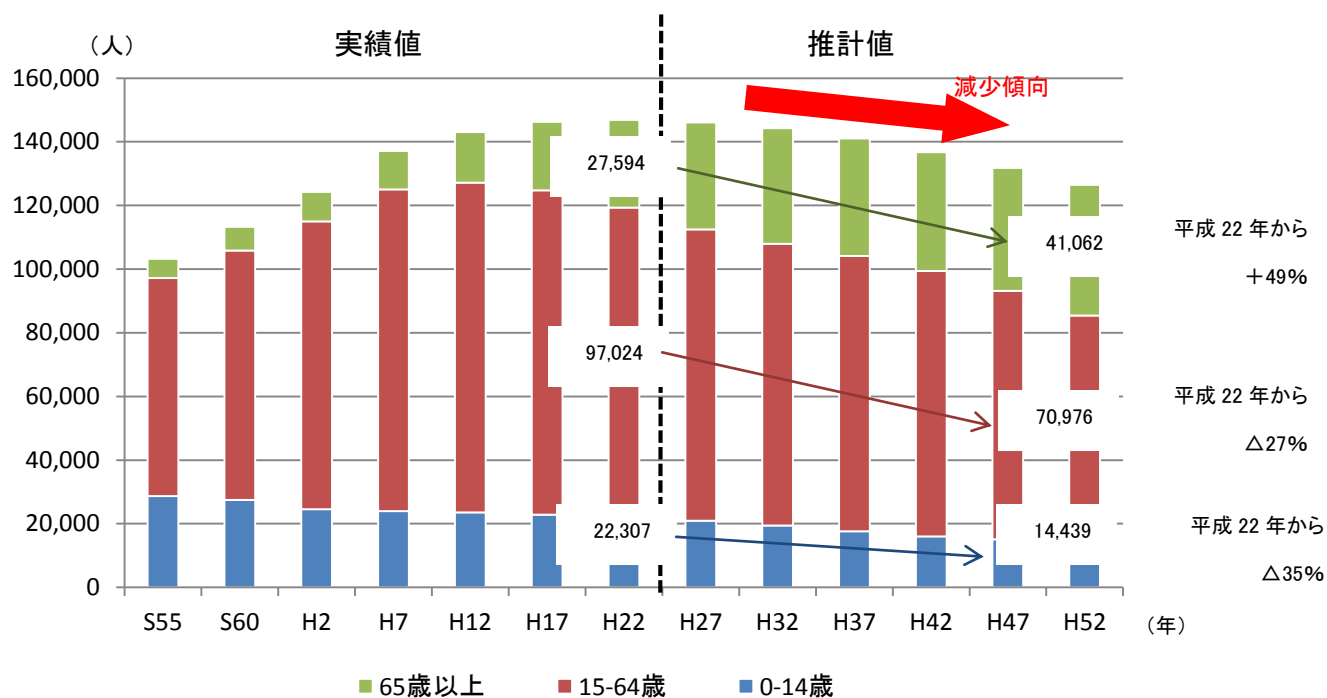
(資料：平成 22 年国勢調査)

⑦本市の将来人口

本計画における人口等の将来見通しについては、まちづくりの方針を定めた小牧市立地適正化計画との整合を図るため、小牧市立地適正化計画にて採用している国立社会保障・人口問題研究所（以下、「社人研」という）の推計（社会移動あり）における推計手法を採用します。

この推計結果によると、これまでの人口動態が今後も続くと仮定した場合、本市の人口は、平成22年以降減少を続けることが見込まれています。

図 年齢階層別将来人口の見通し（社人研 社会移動あり）



（出典：国立社会保障・人口問題研究所 日本の地域別将来推計人口（平成25年3月推計））

⑧地区別の将来人口

ここでは、社人研推計（社会移動あり）における推計手法を地区別に総人口、高齢者人口、年少人口を算出した上で、その分布状況を整理します。

地区の区分については、国勢調査の500mメッシュを採用します。国勢調査の小地域単位（町丁字別）は、より詳細な分析が可能ですが、市街化調整区域を小地域単位に区分すると地区の単位（規模）が大きくなり、詳細な単位で見通しを把握することが困難になるため、500mメッシュを採用するものとししました。

将来人口については、小牧市立地適正化計画では30年後に向けたまちづくりの方針を示していますが、公共交通は小牧市立地適正化計画において示すまちづくりに資するものであることから、平成52年の推計結果を採用します。

平成52年の人口密度は低下がみられますが、特に、小牧駅や田県神社前駅等の周辺や桃花台ニュータウン、市域西部の小木・藤島地区で人口密度の低下が大きくなっています。

ただし、これら地域では一部の地区を除き、平成52年時点においても人口集中地区を設定する目安である40人/haを上回ることが見込まれています。

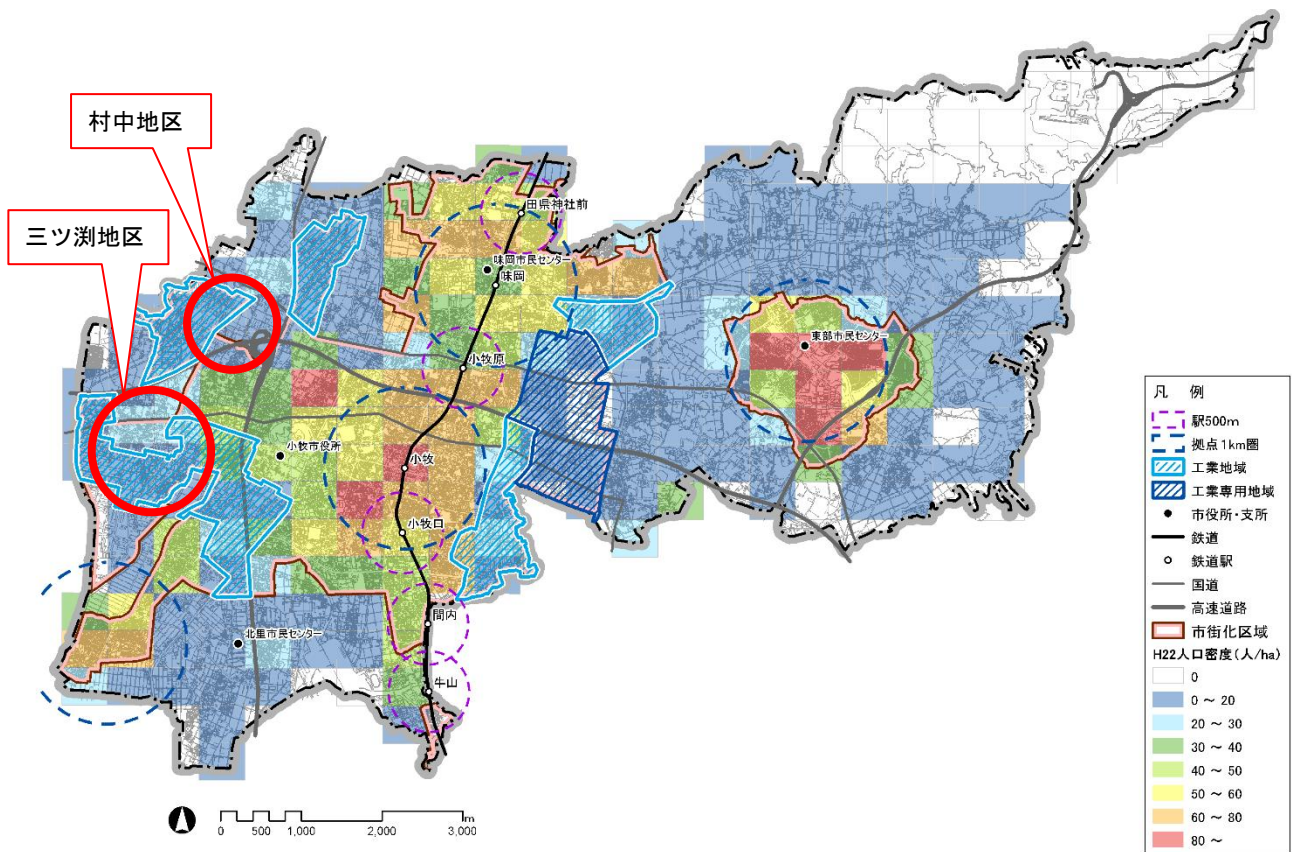
一方、市域西部の村中や三ツ淵地区等においては、住宅と工場が共存している等の理由から、平成22年時点で既に人口密度が低く、今後も上記の目安を下回る状況が続くことが見込まれます。

※小牧市立地適正化計画において目指す都市機能等の集約化に公共交通が資するため、小牧市立地適正化計画において示されている都市拠点、地区拠点及び各鉄道駅について、その圏域（都市拠点及び地区拠点は半径1km、鉄道駅は500m）を図示しています。

（参考）人口集中地区を設定する目安

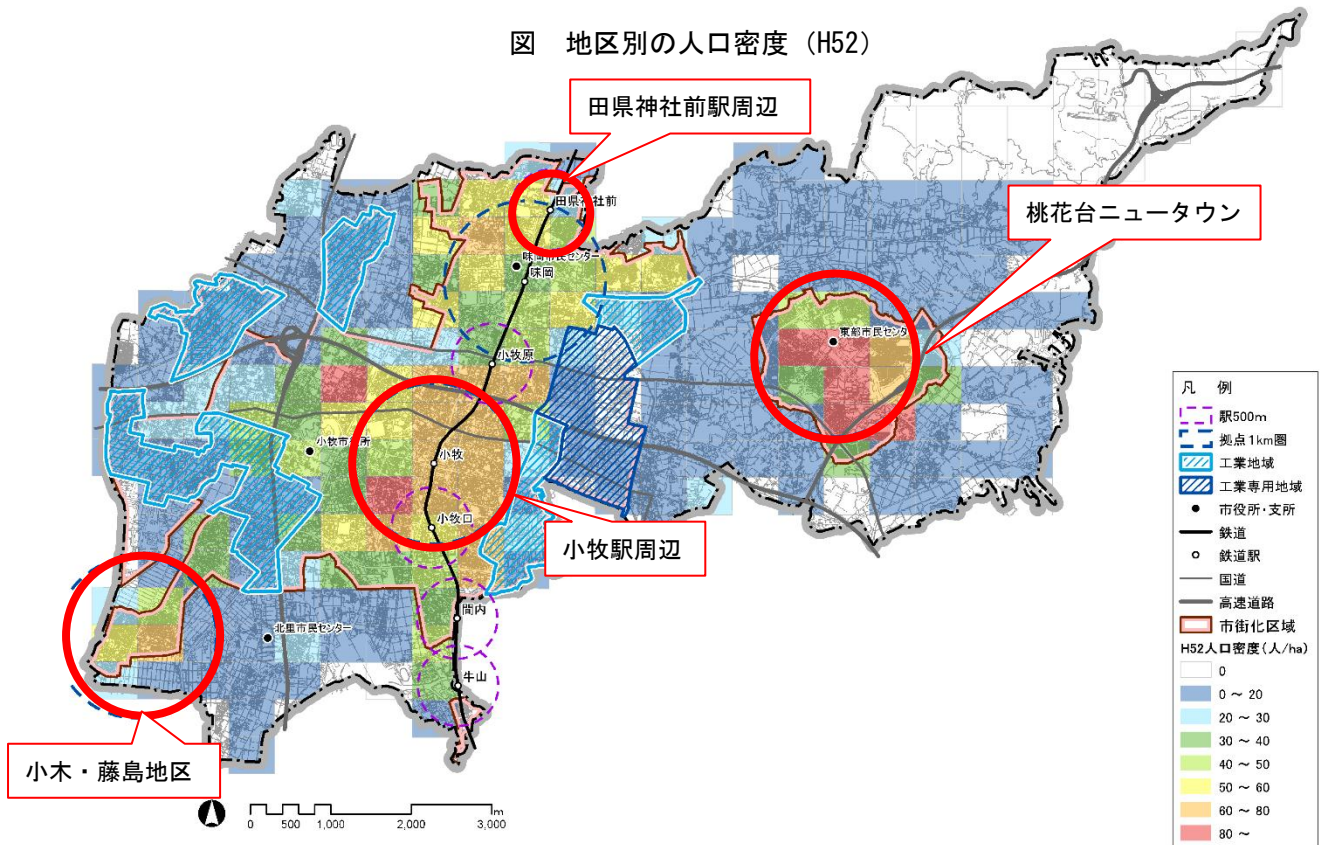
国勢調査では、都市的地域の特質を明らかにする統計上の地域単位として、昭和35年調査から人口集中地区が設定されており、人口集中地区の人口密度は、原則として40人/ha以上とされています。

図 地区別の人口密度 (H22)



(資料：国勢調査)

図 地区別の人口密度 (H52)



※コーホート要因法（社会移動あり）により独自推計